

学校における 業務改善リーフレット

～ 先生笑顔が、子どもたちの未来を輝かせる

大東市の働き方改革 ～



令和8年4月 大東市教育委員会



先生をサポート～児童・生徒と向き合う時間の確保のために～

児童・生徒の健やかな成長を支える質の高い学校教育を持続可能とするためには、教員一人ひとりの心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境が重要です。現在、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化しており、学校に求められる役割も拡大する中、学校において先生方は日々子どもたちと向き合い、献身的な努力を重ねていただいています。一方で、教員の長時間労働の実態が明らかになっており、このことは児童・生徒の学びを支える先生方の心身の健康に少なからず影響を及ぼすとともに、児童・生徒と向き合う時間の確保等、日々の教育活動の質にも大きく関わる重大な問題となっています。



市内における好事例～できるところから取組んでみよう～

市内各校において取組んでいる業務改善の好事例を紹介します。



毎週水曜日は午後6時一斉退勤

Point 午後5時55分にメロディチャイムがなる

※チャイムがなったら、教室で仕事をしていた

職員が退勤のために職員室へ集合！

Point 生徒指導事案以外は全員退勤(管理職も)



会議は勤務終了の午後5時から逆算

Point 会議は午後5時に終わる

※各部会からの説明の仕方が変わる。

※開始時刻には絶対に遅れない。

Point 各会議に設定時間を！



チーム担任制の導入

Point メリット・デメリットはある

※試してみると、子どもたちのためになってい

ることが実感できる！

Point 指導教科が少なくなることで専門性が向上



職員会議は月1回から1.5月に1回へ

Point 当たり前を見直し、必要な案件を職員会議に

※毎月必要かどうか案件を見直し、職員会議は

ICTの効果的な活用でスムーズに！

Point 会議の回数を減らすことで放課後の時間確保



大東市の取組み

大東市教育委員会では、平成29年度より、先生方をサポートするため、先生方のウェルビーイングの向上のため、教員が担当する業務の改善と効率化を図り、児童・生徒と向き合う時間を確保していくことをめざして、学校における業務改善に取り組んでいます。

SSW、授業等支援員、介助員配置

H25 警察 OB 派遣、中学校給食費の公会計化

H28 小学校給食の公会計化

H29 全校一斉退庁日の設定、部活動休養日の設定

授業等支援員の職務拡充(事務支援スタッフ)

H30 学校閉庁日の設定、公簿の電子化(指導要録・出席簿)

出退勤システム

R2 留守番電話の設置

R3 統合型校務支援システムの導入

R4 学校司書全校配置、AIドリル、デジタル採点システム

高速プリンタ

R5 学校における業務改善リーフレットの作成、休日における部活動地域移行

支援教育支援員・不登校支援員の増員

R6 出退勤システムの試験導入、留守番電話対応時間の変更

教頭マネジメント支援員の配置、公共施設予約システムの導入

学校閉庁期間の拡大

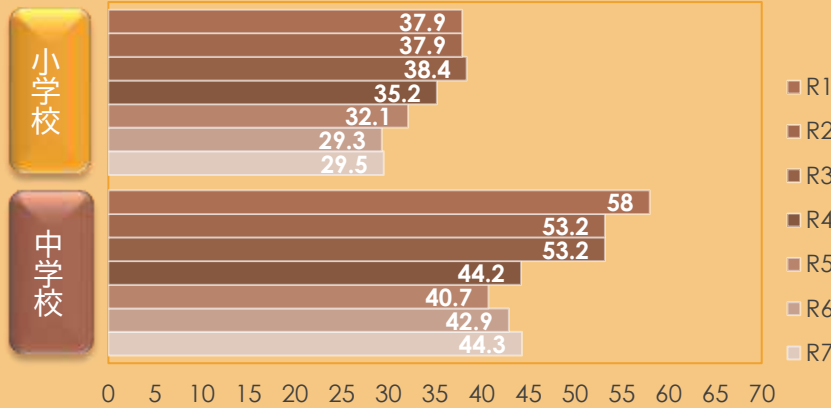
R7 出退勤システムの導入、市独自のスクールロイヤー制度

水泳授業の民間施設活用



教職員の勤務状況

時間外在校時間の校種別平均



時間外在校時間が月80時間を超える教職員の割合

	<小学校>	<中学校>
R1	5.1%	25.9%
R2	6.3%	22.7%
R3	5.1%	20.5%
R4	3.3%	8.3%
R5	2.1%	6.7%
R6	0.8%	7.3%
R7	0.4%	11.1%



学校での取組み ~協力のお願い~

- 管理職のリーダーシップ
「チーム学校」の実現に向け、専門人材との役割分担を主導
- 分析と改善
子どもと向き合う時間が確保できているかを検証し、具体的な取組みの優先順位を教職員全員で決定
- 全員が参加
自分事として考え、全員が議論や取組みに積極的に参加



笑顔をかなえる「7つのすまいる習慣」

業務量を適切に管理し、子どもとの関わりや授業に集中するための実践的な戦略を見つけましょう。

- ① スムーズに共有・使いまわし
- ② まず優先順位を絞り込む
- ③ いつも休憩時間を大切に
- ④ ルール化で会議を定時終了
- ⑤ あしたのために「ほどほど」で切り上げる
- ⑥ つなげる・頼る「チーム学校」
- ⑦ プラスの休息とインターバル